ninoyu satoshi
発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ケイハンシティビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館632号室
TEL.03-3508-8632 FAX.03-5512-2632

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。　題字：栢木寛照

# えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可　平成2年1月18日
口　座　01000-4-62360
平成17年 No.173 10月号

京都の智恵を日本に活かす。

二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

## 自民党、政治資金規正法改正へ 厳しくなる無所属の政治活動

### 自民党執行部「造反組」へ支部解散を通知

政治資金の重要な受け皿である政党支部の解散に関する政治資金規正法の一部を改正する法律案が、今特別国会で可決成立する見込みである。

現行法では、政党支部の解散届は当の支部自体からしか提出できない。仮に、支部長が党籍を失ったり議員でなくなった場合も、解散手続きをしなければ、支部は解散せずに済む。だが、今回の改正の目的は、党本部の一存で政党支部を解散できるようにしている。

この改正案は、自民党執行部が、先の郵政民営化法案の採決で反対したいわゆる「造反組」を処分するためのものと言える。「造反組」に対する多少の同情の声もあったが、10月4日の自民党選挙制度調査会で了承された。これに伴い、自民党執行部は、12月1日より改正案を施行できるように調整を進めている。

政党支部は、支部長にとって、企業・団体からの献金を受けられる唯一の受け皿である。それを失えば、個人からの献金しか受けることができなくなり、支部長の政治活動は当然今までよりも資金面で厳しくなる。党執行部による「処分」は、当落を問わず現在無所属である全ての「造反組」を対象とする模様だ。党本部は造反組31人に対し、支部の解散届を選挙管理委員会に提出するよう通知した。

京都府では衆議院第4選挙区支部が対象となる。先の総選挙で、田中英夫前議員は、無所属で出馬し、党本部公認の中川泰宏氏に破れたが、現在も衆議院京都府4区の選挙区支部長を務めている。

全国では、「造反組」のうち27人が20の道府県において無所属で出馬した。それらの全ての選挙区で、自民党公認のいわゆる「刺客」も出馬した。自民党の道府県連では、公認候補ではなく無所属候補を応援したところもある。法律が施行されれば、党本部公認の議員の処遇をめぐって、それら道府県連支部は苦しい対応を迫られる。

## 大勝利で大混乱の自民党本部

9月11日の第44回衆議院総選挙で、自民党は296議席を獲得し歴史的な勝利を収めた。解散前の議席は、いわゆる「造反組」を含めて251(河野洋平衆議院議長を含む)であったから、45人も議員が増えたことになる。また、新人議員は83名にも上る。

当選後しばらくの間、たいていの新人議員は、自らが専門としていく分野を広げようと、できるだけ色々な勉強会に参加する。その結果、自民党本部は連日、殆どの会議室で超満員となり、周辺の道路脇には駐車場から溢れた送迎用の車が長い列を成している。

10月5日、二ノ湯議員は8時からの地域交通に関する勉強会に出席し、その後、8時30分からの社会保険庁の改革に関する勉強会に移ろうとした。しかし、行先の会議室は、大注目されている話題の勉強会ということで、非常に混雑していた。

出入口は、内側から押し出された秘書やマスコミ関係者などでごった返し、そこを突破して出入りするのも一苦労である。増やせるだけ増やした議員席には空きがなく、メモを片手に秘書たちが通路を埋め尽くし、互いに押しつ押されつしている。人が多すぎるため、汗が滲み出るほどの熱気が充満している。結局、二ノ湯議員は引き返すことにした。

すこし時間が経てば、新人議員も出席する部会を絞り込み、混雑は緩和されていくだろう。勉強会に参加者が多く活気づくのは結構なことだが、議員が参加出来ないのも困ったものである。

自民党の大勝利が生み出した迷惑な副産物である。

会議室に入りきれない部会出席者

## 次回のために 初心にかえり 歩み始めたい

“えとす”会員の皆様にはご清祥にてお過ごしのことと存じます。選挙が終わってひと月が過ぎました。

大勢の皆様から暖かいご支援を頂きながら勝利できませんでしたこと、誠に申し訳なく、心からお詫び申し上げます。特に二ノ湯さとし先生には、暖かい応援をいただき後援会を通じてご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

戦い終わってみると、あの投票率の高さ、小泉ブームの風、無所属立候補の厳しさを痛感しています。全てについて今少し頑張っておればと反省しきりです。選挙には常に10も20もの反省点がありますが、結局は私の力不足、地元活動の不足の結果と深く反省しています。

そんな中、得票75,036票、惜敗率99.8％、156票の差のところまで積み上げて頂いた支持者の皆様の尊いご支援に改めて深く深く感謝しています。

私自身は今後、何としてもご支持の皆様のご恩に報いてゆかねばと、改めて次回への明確な意思を持って初心にかえり、新たに第一歩から歩み始めています。

来年には知事選、そして年明けて統一地方選、そしてその間に、第四選挙区内では、合併に伴う各市町長・各議会議員選挙も行われ、ここ二年間では地方選挙が目白押しの状況となります。

それぞれの地域社会発展のため、ご支持の皆様と共に今後も政治活動に精進して参ります。

今後も変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

“えとす”会員の皆様、二ノ湯さとし先生の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

前衆議院議員　**田中　英夫**

（田中ひでおホームページ/www.tanaka-hideo.com）

## 田中ひでお後援会役員会 捲土重来を期し、今後の取り組みを強化

先月27日、ガレリア亀岡にて田中ひでお亀岡後援会の役員会が開催された。

冒頭、田中英夫氏の挨拶の後、今回の選挙の総括が行われた。

田中ひでお後援会としても、今選挙は無所属による様々な制約や、非情ともいえる対抗馬の出馬など、思いもかけない、大変苦しい戦いであった。

そして、僅差だけに敗北を一層惜しむ声があがる一方、「負けは負けとしても僅差。多くの支持者の為に、何としても捲土重来を期して欲しい」といった声が、地元選出議員をはじめ、後援会役員から沸き起こった。また田中英夫氏をはじめ事務所スタッフが行く先々でも、励ましと再起を期待する言葉が多くあるという。

再起に向け、後援会では、既存の各地域の後援会組織の充実に加えて、京都市内に無かった後援会組織の設立や、ミニ集会・勉強会などの活動を今後積極的に行っていこうということになった。

いずれにせよ、後援会はじめ支持者のこういった声は、今後の田中英夫氏の活動の何よりの源泉となるであろう。本格的な地方分権が進むなかにあって、二ノ湯議員と同様、地方政治に精通した政治家の一人であるだけに、田中英夫氏の早い国政復帰が望まれる。

## 次期、地方統一選候補者 府連、公募も視野に入れ早急に決定

自民党京都府連では、さる10月1日、幹部会、総務会合同会議を開き、来るべき地方統一選挙の候補者問題について協議した。対象となるのは、京田辺・井手・宇治田原、左京、右京、伏見の府会議員、左京、山科、右京の市会議員で合計７選挙区。各支部で11月末日までに候補者の選考作業を進め、それでも支部において適当な候補者を選考出来ない場合は、公募も含めて府連と支部が相談し、府連主導で取りまとめることを確認した。地方議員の公募は、自民党京都府連では、今までに行ったことがない。果たしてどれだけの人が応募してくれるか、注目されるところである。

## 小泉総理大臣の再選はあるか

総選挙での自民党圧勝を受けて、党内でも小泉総理再選への期待が高まっている。

10月４日の参議院予算委員会で、自民党の若林正俊議員が「国民の支持を得た改革をいい加減にしてはならない。あと１年間大いに進めて欲しいが、改革は１年で成果が出るものでもない。やはり、総理はもう少し続けて改革を推進すべきだ。周囲にはこうした声が多い。」と述べ、総理の再選支持を匂わせた。

それに対して総理は「来年９月の任期切れまで、総理として精一杯やる。改革は、一つ一つ課題を解決していくしかなく、１・２年でできるものではないが、あと１年、軌道に乗せるよう精一杯やる」と述べるに止まった。

マスコミでポスト小泉として取り上げられる政治家の中には、自ら総理への意欲を明らかにしている議員も少なからずいる。しかし、現在の内閣支持率を見る限り、ポスト小泉よりも小泉総理の任期延長を求めているというのが、世論の実情だろう。

また、先の総選挙を小泉人気で勝ち抜いた新人議員には、総裁の意向に従いどの派閥にも属さない「小泉チルドレン」が多い。それに加えて、４年前の参議院選挙でも当時の小泉人気で当選した議員は多く、党内の小泉支持の声は強いと思われる。小泉総理は、今まで一貫して任期延長を否定してはいるが、選挙での圧勝を経た今、真意は一体どうなのだろうか。

## 自民党政経文化懇談会のお知らせ

恒例となりました自民党の政経文化懇談会が開催されます。皆様方にお願いするのは誠に心苦しく存じますが、なにとぞご協力下さいますよう心よりお願い申し上げます。

◆日時　平成17年11月13日(日)
■講演会　13時(メインホール)
講師　参議院議員　**舛添要一**先生
■懇親会　14時半(イベントホール)

◆場所　国立京都国際会館(左京区宝ヶ池)

◆会費　一口3万円

☆お申し込みは二ノ湯さとし事務所まで

## 《寄稿文》中味のない今回の衆院選挙

思いがけない今回の解散による衆議院議員選挙は、郵政民営化の賛成か、反対かという唯言葉のみの上すべりしたものでした。中味の伴わない賛成に大きな風が吹きました。

終戦から六十年の歳月が流れ、今年は還暦を迎えた年でもありました。大戦を経験した人はだんだん少なくなり、知らない人は一億人ともいわれています。戦いのきびしい中を生きぬき、今日を迎えている私は、戦争という肩にのしかかった重い歴史には、いろいろのことが脳裡をかすめます。

国を挙げて戦争を遂行する体制をつくるため、一九三八(昭和十三)年国家総動員法が成立しました。これによって政府は議会の同意なしに、物資や労働力を動員できる権限を与えられました。また言論への検閲も強められました。そして一九四〇年十月には、政党が解散して大政翼賛会ができました。当時の思いが今回の選挙に重なってくるのです。

議会で十分に論議もされず、「選挙民が判断を」と言葉はよいように聞こえますが、これは議会制民主主義を無視しています。反対の疑問に答えず改革の邪魔者というレッテルをはってしまうのに危惧をいだきます。

かってヒトラーは、国民投票で独裁を握りました。毛沢東は、紅衛兵という国民の直接運動をおこないました。

年金、福祉、外交等、諸々の課題が山積しているのに、しかも郵政民営化のある部分だけの反対に、「自民党員でない」というのは、良識のある人の言うべき言葉ではないと思います。

「門前の小僧、習わぬ経を読む」といいますが、「郵政民営化なくして改革なし」の唯それだけのマジックカード、大衆運動で政策を左右する歴史の一歩の始まりをかんじます。

二ノ湯先生、希望のもてる明るい日本の未来をよろしくお願いします。

城陽市社会教育委員長　澤田　榮

## 「伊根町の未来を拓(ひら)く会」発足
### 伊根町、宮津市との合併に向けて再出発

現在、宮津市との合併協議が休止している伊根町で、住民有志らが、合併協議の再開を目指す「伊根町の未来を拓く会」設立総会が十月一日伊根町福祉センターで開催され、二ノ湯参議院議員も来賓として出席した。二ノ湯議員は「交通網の発達により日常社会生活圏は広域化し、今の市町村単位が本当に適切かどうか見極めなければならない。また中央集権による全国一律の行政サービスから、地域の特性を活かしたまちづくりを行う必要がある。しかし国・地方公共団体の財政状況は極めて厳しい状況にあり、現在の行政サービスの水準を子や孫の時代まで維持するには効率的な地方行政体制の整備が不可欠である。そのためには市町村合併を進め、町村の行財政基盤を充実させ、地方分権を実現しなければならない」と合併の必要性を訴えた。宮津市と伊根町は、今年一月に法定合併協議会を立ち上げたが、合併の是非を問う伊根町住民投票が三月に行われ反対が過半数を占めたため、合併協議会が休止状態となっている。そんな中、町社会福祉協議会会長の山田章氏らが発起人となり、「合併推進に精力的に取組んでいる向井義昶町長を支援する」との趣旨で「伊根町の未来を拓く会」が結成された。「拓く会」では、今後、町内4地区で住民との対話を重視、理解を求めて、一日も早い宮津市との合併を促進する方針である。

合併の必要性を説く二ノ湯参議院議員

## 新春招福バスツアー 第19回 伊勢神宮初詣

◇旅行日　平成18年1月9日(月・祝)
◇昼食場所　賢島『宝生苑』
◇申込締切日　平成17年12月15日(木)
◇会費　8,000円
◇申込先　後援会役員または二ノ湯さとし京都事務所まで
TEL(075)315-2228
FAX(075)315-2310

一年間の幸福を祈願し、新たな気持ちで新年を迎える行事として、多くの方々のご参加をお願いいたします。

参議院議員
二ノ湯さとし後援会

## 思い出の写真
### 五〇年ぶりに知人に再会

九月下旬、私の秘書が井手町を回っている時、岩田町会議員から数枚の写真を私に手渡すように依頼された。その写真を見てそこに写っているのが私、そして両親、弟であることがすぐに分かった。しかもその写真には他の家族の人も写っていたが、その方が天野さんの家族であることも覚えていた。昭和二七年から三〇年まで、私の父親が井手の教育長をしており、単身赴任で井手町多賀に下宿していた。その時、父親が大変親しく付き合っていたのが、天野一郎(元井手町教育委員)さんだ。昭和三〇年頃の春休み、両親が私と弟を「あやめ池」に連れて行ってくれた。その時、天野さんご一家と一緒であった。その時の記憶ははっきりしていて、遊園地で遊んだ後、奈良ホテルへ行き、そこのロビーで生れて初めてテレビを見た。私が父親と遊びに行ったのは後にも先にもそれが一度きり。昔の父親はそんなものだった。しかも、父親と一緒の写真はあやめ池で撮ったものだけである。三枚いただいた内、一枚は私も持っているが、他の二枚は初めて見る。弟と一緒のツーショットもあり、早速焼き増しして弟に渡した。写真をいただいた翌日、井手町多賀に今も健在の天野さんご夫妻に五〇年ぶりにお目にかかり、父親の話題に花を咲かせた。

## 第151回
## みんなで歩こう湯歩会(参加者76名)

松尾大社にて

## 歩くことは健康の基本

## 第152回
## みんなで歩こう湯歩会

- 日　　時：**10月23日**(日) 小雨決行
- 出発時刻：午前8時30分(時間厳守)
- 集合場所：地下鉄国際会館駅(3番出口)
- コース：国際会館駅→岩倉長谷団地→岩倉貯水槽→田園地帯→市営村松団地→岩倉実相院沿い→岩倉川沿い→国際会館駅解散

● 以前も歩こう会で、百名以上の参加者がありました大人気コースです。岩倉は今なおのどかな田園風景も残っており、今回のコースもなかなか変化に富んでいます。歩こう会に時候も最高です。気軽に是非ご参加下さい。

● 代表世話人　北村好司郎　☎075-313-8758
(当日)090-1140-4964

## 身辺雑記

後列、右から父、母、天野夫人
前列、右から弟、私

一、選挙後、各地域の運動会を回った。どこでも話題にのぼるのは4区の選挙結果。惜しい、悔しい、残念という言葉が続発する。それほど田中氏の惜敗は印象的であったということである。

一、選挙では勝てば官軍、負ければ賊軍と言われる。もっとひどく言えばサルは木から落ちてもサルであるが、政治家はただの人以下とからかわれる。今度の選挙で、議席を失った人はそんな思いをつくづくしているのではないか。

一、昔西川きよしが初当選した時、小さいことからこつこつと勉強していきたいと言って、国会議員がそんなことでどうすると強い批判を浴びたことを記憶している。今回初当選した議員も一から勉強という人も多いようだ。国から国会議員としてふさわしい厚遇を受けているという自覚と責任を持ってもらいたい。

一、自民党員の党費を納付する時期である。後援会役員の方々に徴収してもらっているが、二ノ湯さんは自民党に戻れるのかという質問をよく受けるという。郵政民営化法案に反対し、無所属の田中英夫さんを応援したので、私が無所属議員になったと思っておられる方が多い。私が自民党を離党することはあり得ない。

一、秋といえば、味覚のシーズンでもある。中でも丹波松茸が王様である。しかし気候が暖かい上に雨が少ないためほとんど獲れないという。季節の特産物が少なくなっていくのは残念なことである。

### 「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は
毎月一回の発行です。

毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい

年間購読料　1200円

郵便振替口座 01000-4-62360
口座名：みんなで政治を考える会

── お問い合わせ先 ──
二ノ湯さとし事務所
電話　075-315-2228

ホームページを開設いたしました
http://www.ninoyusatoshi.com

### 「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

**新政経懇話会　年会費　1万円**

入会申込や詳しい説明はお問い合わせ下さい。

二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228